

平成27年4月

平成27年度 八王子市立由木西小学校経営計画

八王子市立由木西小学校

校長 那須 郁夫

1 はじめに

校長として本校を経営して3年目を向かえる今年度。全校児童が68名と依然として減少傾向に歯止めがかからない現状であるが、本校を選んで入学・転入してくる児童が4名いたり、学校見学にくる保護者が複数いたり等、選ばれる学校として浸透され始めてきていることは体感できるようになってきた。だからこそ、今年度は、打ち出して共有化してきたアプローチをメソッドとして確立していくことが重要であると考えている。由木西のメソッドが実効性のあるものとして一般化していくためには、確かな検証が必要である。学校の共通した取組を校長のリーダーシップの下、多様に検証し、メソッドの肉付けを図っていくことが3年目の私に科せられた課題となる。そして、本校は、今年度より地域運営学校としてスタートする。家庭や地域と共に歩む学校として三位一体の連携を大いなるチャンスとして捉えていく。そして、「全人教育が実現される学校」を標榜して3年目の成果を内外に発信し、選ばれる学校への変容を目に見える形で遂げていきたい。

2 中期的目標と方策

本校において喫緊の課題は、児童数の減少に歯止めをかけ、家庭や地域から選ばれる学校として変容を遂げていくことである。だからこそ、中期的な経営の目標は以下の通りとなる。

中期的経営目標

「数年後には100人規模の由木西小をめざす」

そのためには3年をスパンとしてPDCAサイクルを動かし、確固たる由木西メソッドを確立していくことが必要である。第一期であるこの3年間、今年度はいよいよ3年目となり、ホップ・ステップ・ジャンプのジャンプの年になる。改めて、3年間に掲げてきた方策については以下の通りとなる。

1年目(ホップ)・・・経営指針実現のための基盤となる手立ての構築

2年目(ステップ)・・・手立ての実効性を高め、経営指針達成のための確かな見通しを共有化する

3年目(ジャンプ)・・・児童の変容を通して由木西メソッドを体系化し、選ばれる学校として児童数の増加傾向を共有化する

3 経営の基本

引き続き、私は、学校経営の基本として、次の4点を重視していきたいと考えています。

- ① 教育公務員として教育の諸法規、学習指導要領、都や市教育委員会の法規、法令等を踏まえる。
- ② 児童の安全第一を優先し学校の対応をとる。
- ③ 一人一人の教職員が、教育の専門家としてのプロ意識をもち、学校教育・学校運営に参画する。
- ④ 子供たちの健やかな成長を図るために家庭、地域と連携していく態度をもち、実践していく。

4 学校経営方針

学校内外に校長の学校経営方針を発信している。あえてわかりやすい言葉を使用しているのは、目指す方向を共有していきたいからである。

「自然にふれ合い、様々な人たちと関わり合いながら体験的な活動をたっぷり行うことで、人間としての五感が磨かれ、豊かな感性をもった人として成長が育まれていきます。そして、座学によって培われる学力と相まって、由木西だからこそできる教育が展開されていく、そう信じています。何かがデフォルメしたいびつな形の教育ではなく、小さくても風船を大きく広げていくような全人教育をめざしていきたいと思います」

今年度もめざしたい教育理念を以下のように掲げる。

「由木西だからこそできる全人教育の実現」

そして、全人教育が実現される学校像として今年度は、5つに集約し取り組んでいく。

- ① 保護者、地域と共に歩む学校
- ② 全ての子どもたちに学力が身に付く学校
- ③ 自然とともに生きる学校
- ④ 健やかな心身と、笑顔が輝く学校
- ⑤ 音楽と造形活動が、そっと息づく学校

さらに、3年間の取組の成果と課題を家庭や地域に対して発信していくことを意図して、平成28年2月10日(水)に由木西オープンキャンパスを行う。

- ① 4・5時間目 話し合ってきた共通のメソッドを取り入れた授業、めざす学校像の具現化に迫る授業公開
- ② 給食試食会
- ③ 6時間目以降 由木西の取組について「成果と課題」

※私が一人でやっても構いませんが、それぞれの立場で何か発信できないかお考えください。

5 学校経営方針の具現化を進める具体的な方策～めざす学校像の具現化を図るため～

(1)保護者、地域と共に歩む学校

地域運営学校としての特色ある取組の創出

- ① 平成27年度、本校は地域運営学校としてスタートする。保護者や地域の教育力を導入し、さらに特色ある教育を創出し、発信していく新たな学校としてのスタートとなる。10名の学校運営協議会委員に加え、教育コーディネーター・吉田 忍先生の力を借りながら、「由木西だからこそできる全人教育」をテーマに熟議を重ね、めざす教育を構築していく。

【学校運営協議会委員】※敬称省略

・高麗 茂樹 小沢 安男 高麗 庫夫 木下 充生 小泉 渉 碓井 恵夫

・塚島 敬一郎 青木 利勝 PTA 本部役員 校長

- ② すっかり、本校の強みとなってきた「由木西公開講座」を学校運営協議会を基盤とした取組に再構築し、広く、児童、保護者、地域が学ぶ場としていく。今年度は季節ごとの開催を企図し年に4度の実現をめざす。
- ③ 教職員としての社会・地域貢献として、週休日の地域行事やPTA行事に年に1度は最低でも参加し、共に語り、共に汗を流しあえる関係作りを継続する。

(2)すべての子供たちに学力が身につく学校

学力向上→ ① 数値の高まり ② 学びの質の高まり

① 実効性の高い実践の共有化

- ア 小黒板を活用した学び合いの全学年での実践
- イ 一斉音読、暗唱の取組
- ウ 朝学習での山田メソッドプリント
- エ 授業のユニバーサルデザイン化
- オ ノート指導

② 校内定着度調査の活用

- ・ 5割にいかない児童には、前の学年の定着度調査の実施→つまずきを見つける取組
※休み時間を利用して4/17までに学校で行いたい。宿題でも可能
- ・ 5割～7割 当該学年のベーシックドリルを朝自習や宿題で取り組む
- ・ 7割以上 現学習の中で肉付きを図る

◎校内定着度調査の実施は今年度の問題を改善して、漢字は9月、1月、3月に、算数は3月に実施する。

④ 校内研究の重視

「言葉の力を向上させる指導法の研究(仮)」

○研究方法

- ア 一人1テーマの研究課題の設定
- イ 授業研究を中心に、変化の事実と手立ての明確化を図る
- ウ 講師やアドバイザーからの学習

○ 由木24学びの会の実施・・・月に2回の実施をめざす

④ くららルームの活用

- ・ 個別学習支援(休み時間や放課後)
- ・ 自己有用感やコミュニケーションスキルの向上(リソースルームとしての活用)

⑤ 土曜学びの会(土曜補習教室)の実施

○ 回数や実施時期

- ・ 毎月、1回から2回を予定する。
- ・ 学校行事や休業日等により月により回数は異なるが、年間予定表を作成し年間の実施回数

を17回とする。

4/25 5/9 5/30 6/13 6/27 7/11 9/5 9/19 10/17 10/24 11/28 12/12 12/19 1/9 2/20 3/5 3/12

- ・ 1回の実施時間は、午前中の1時間30分とする。(10:00～11:30)
- 指導内容
 - ・ 4年生から6年生を対象とする。
 - ・ 補充的な学習に加えて、学ぶことの楽しさを広げ、学習意欲を喚起する取組を付加していく。

※塚島敬一郎先生のおもしろ算数教室 内野秀重先生の学校林探検教室等

- 指導体制
 - ・ 今年度も塾長を指宿先生にお願いする予定。
 - ・ 教育ボランティアが1回あたり3名あたり、一人一人の個別の指導にあたる。

⑥ 学校司書を活用した「ことばの教室」の企画

- 学校司書の出勤日の放課後(15:30～16:30)に「ことばの教室」を実施する企画をたてる。
- 指導内容として考えられること
 - ・ 本の読み聞かせや辞書を使った学習
 - ・ 読書感想文を書く学習
 - ・ 文法や作文
 - ・ 漢字 等
- 指導体制は校長と学校司書を中心に、個別に先生方をお願いするかもしれません。

⑦ 家庭学習への取組

- 家庭学習3点セットの継続実施
 - ・ 自己点検カード ・ 宿題セット ・ 3年以上は自主学習
- 「ぼくもわたしも家族の一員運動」への取組
 - ・ 昨年度の保護者、児童へのアンケート結果では、10月から取組始めたこの運動の理解や定着が進んでいない。家庭学習⇌家庭の中での役割の相関関係が見られることを重視し、PTA、学校運営協議会での話し合いを組織していく。

⑧ 教職大学院実習生の受け入れ

- ・ 今年度も9月から長崎伸仁先生が指導する創価大学教職大学院生の実習を受け入れる。

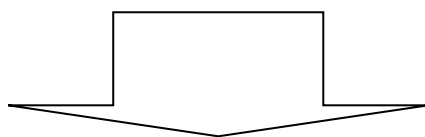
(3) 自然と共に生きる学校

自然の中での体験活動と学力や心の豊かさとの相関関係の検証

① 学校林を通した人づくり

- 学校生活の中での人づくり
 - ・ 各学年、教科・領域において学校林を活用した学習を計画し実施する。
- 「学校の森 子供サミット岡山大会」参加を通した人づくり
 - ・ 児童2名、教職員1名分の費用は大会主催者持ちとなるので、参加への道筋を探る。申し込み締め切りは4/15。

- ・全国の子どもたちとの交流を通して 各発表を通して(大会 校内 学運協)
 - 由木西小グリーンファミリーズとの関わりを通じた人づくり
 - ・活動を通して、地域、保護者、卒業生の人の輪の中で自然を保全していこうとする心を育てていく。
- ② 大切な食育
- ・由木西小学校の食育の取り組みを継続し、学校の特色として大切に実施していく。
 - ・開かれた給食として、昨年度の取り組みをさらに拡充させ、地域とのふれ合い給食の実施について企図していく。



◎体験活動と学力、心の豊かさの相関関係を検証する実効性のあるアンケートの実施
2月10日の由木西小オープンキャンパスで示していく。

(4) 健やかな心身と、笑顔が輝く学校

自己有用感を高める

- ① くららルームの活用
- ・少人数で個に応じたかかわりが日常的に行われている学校であるが、特別支援校内委員会の機能を大いに生かし、自己有用感やコミュニケーションスキルの向上を図る取組の中心にくららルームの活用を位置づけて行く。
- ② スクールカウンセラーの活用
- ・新スクールカウンセラーとなるが、児童全員との面接等のかかわりや保護者とのティータイム研修等は継続していく。
 - ・担任と連携して、T・Tを組んで、心を育てる授業を行っていく。
 - ・SSW と SC のつながりを組織して、不登校児童へのケース会議を実施する。
- ③ 心身の健康への取組
- ・学期に1度、いじめアンケートを実施し、気になる児童への対応をしっかりと行う。
 - ・八王子市学校保健会優良校の受賞の実績を継続していく。さらには、学校医との連携を深めた健康作りを行ったり、学校保健委員会を一層、本校の教育に機能させたりしていく。
 - ・たくさんエピソードが蓄積されてきた「あいさつ」の充実をさらに学校全体で共有化していくため、由木西3箇条の「あいさつ」の取組を重点化し、全校朝会等で意識化を図っていく。
 - ・健やかな生活を送っていくために環境の美化に努める。具体的には、清掃活動をしっかりと行う。そのための清掃用具類の購入費を学校予算の中で拡充していく。
 - ・全教職員が、体罰根絶の意識を強くもち、子供たちの心に響く指導を行っていく。

(5) 音楽と造形活動がそっと息づいている学校

ひらく かかわる つながる

子供たちの感性を培っていく上で由木西の子供たちが大好きな音楽と造形活動が息づいている学校としていく。集会、授業、休み時間に響くハーモニーやメロディー、どの作品も自分らしさを誇示してやまない作品、まさにそうした活動が由木西の子供を育て、学校を豊かにしていくと信じている。


- ・「ひらく かかわる つながる」を具現化する活動を積極的に行う。
- ・小中の9年間で意識したかかわりを行う。
- ・自然とのかかわりの中で育まれる感性を生かした実践を探る。

6 最後に

昨年度の保護者アンケートでは、小中一貫教育への評価に厳しいものがあつた。

- ・各学期ごとの3校の交流
- ・鏈水中学校との合同部活動や漢字検定

以上を実施したが、9年間のスパンでの教育という視点では物足りないという評価として受け止めている。私自身は、加住小中学校で小中一貫校を作ってきた経験があるので、この評価はとても妥当であると感じている。今年度は、3校での話し合いを増やし、小中一貫教育を推進する具体的な手立てについて話し合っていく。

- 
- 数年後には100人規模の
 - 由木西小学校をめざして

- 由木西だからこそできる
全人教育の実現

- 保護者、地域と共に歩む学校
- すべての子供たちに学力が身につく学校
- 自然と共に生きる学校
- 健やかな心身と、笑顔が輝く学校
- 音楽と造形活動がそっと息づいている学校